●山村ミーティング関係資料

丹羽健司

１．矢作川感謝祭の経緯と成果

－1、経過

山村と林業の担い手である森林労働者特にアイターン者たち山仕事や暮らしのことを話し合う場を作ろうとして始まった試みも、当初から集うこと自体が困難でありその動機付けも難しく挫折した。

そこで北海道中川町の「きこり祭り」からヒントを得て「矢作川きこり祭り」を提案した、ちょうど同様の林業祭の足助の「もみじ祭り」が廃止される時期と相まって実現に向けて動き出した。2016 年春「矢作川感謝祭」への主体的参加を実行委員会に対して申し出たが、受け入れ準備不足という理由で１年順延となった。2017 年の感謝祭については、年度当初の実行委員会発足から参加が認められ、主催者の一員として参加できることとなった。その際、山から海までの流域の感謝祭という認識で一致した。

準備の会議を進めるうちに、根羽村森林組合の木づかい推進、とよた森林組合の高性能林業機械ＤＥＭＯ、岡崎森林組合の岡森フォレスターズの出演、矢森協の薪割体験、チェーンソー体験などが実現した。プログラムも、オープニングコンサートや会場配置など最大限優遇していただいた。そして当日を迎えた→「矢作川流域圏懇談会通信Ｈ２９．９」参照

－２、成果

・感謝祭が「川」から「流域」になった。
・街の人達に林業の一端を知ってもらえた。カッコイイ！気持ちいい！
・本物の樹や木に触れてもらえた。
・木のおもちゃから大型機械まで、根羽から岡崎までの流域のつながりを感じてもらえた。
・岡森フォレスターズが歌で山の思いを伝えてくれた。
・森林組合間の交流が始まった。プロとアマが少しつながった。
・川の人達の子供や女性との一体感が凄かった、普段の活動の底力の違いを感じた
・今回は川関係が主体となって準備から本番・片付けまでバリバリやった、山関係はおんぶにだっこだったが、来年度はそうはいかない。もっと主体的に関わらねばならない。
・来年度は「きこり祭り」きこりオリンピック的な要素を加味したい。
・恵南森林組合や他の団体にも早くから声を掛けたい。
・山関係の広報や企画、調整、とりまとめは懇談会として取り組もう。

２．１００人ヒヤリングの進捗状況

岡崎森林組合ととよた森林の全５支所に説明と協力要請終了。９月中に岡崎からヒヤリング開始、１０月以降豊田を順次開始予定。感触は良い。支所長らとの面談では、他班、他支所、他組合との交流の重要性がよく話された。